

MSI Marine News

トピックス



●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

特集

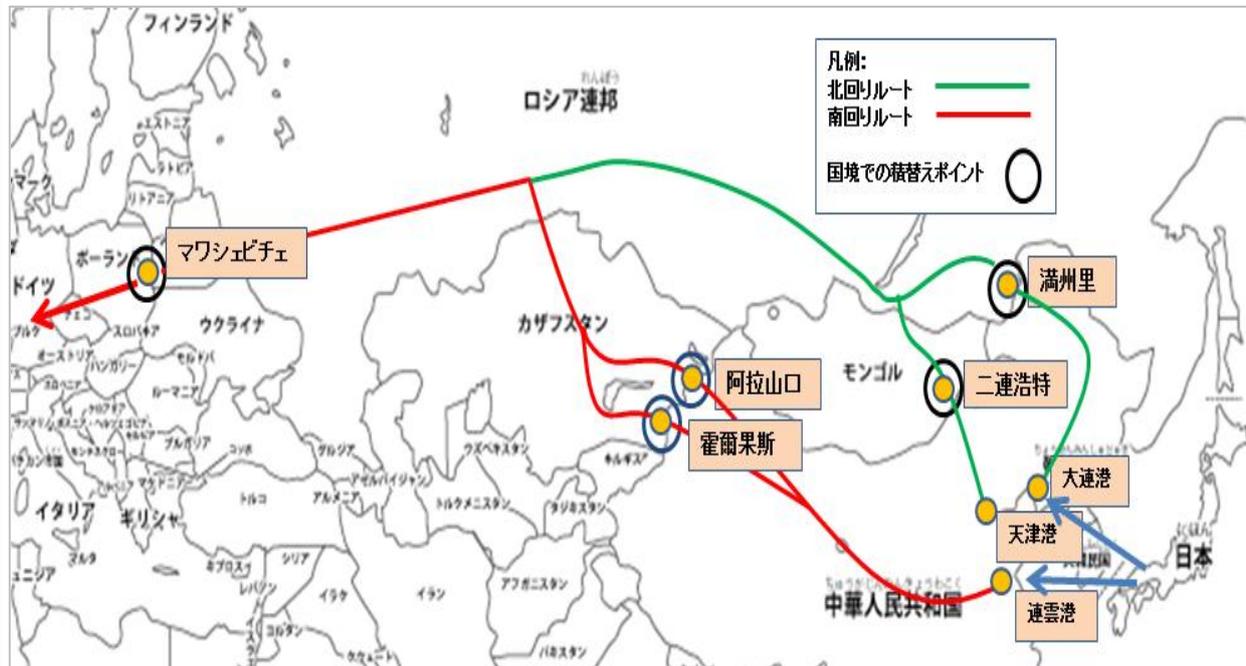
「ユーラシア・ランドブリッジ」の現状と今後（2）（全3回）

前回の MSI Marine News（2018年7月11日号）でご案内のとおり、本稿ではチャイナ・ランドブリッジ（中国・欧州間鉄道）の輸送ルートと輸送環境の実態についてご案内いたします。

1. 輸送ルート

チャイナ・ランドブリッジは経由地により様々なルートがありますが、大きく北回りルート（緑色）と南回りルート（赤色）に集約されます。

【北回り・南回りルートと主な積替えポイント】



- ・北回りルート：内モンゴル自治区の満州里（マンチュリ）からロシアまたは二連浩特（エレンホト）からモンゴルを経て、欧州に至るルート
- ・南回りルート：新疆ウイグル自治区の阿拉山口（アラシャンコウ）や霍爾果斯（ホルゴス）よりカザフスタンを通過し、欧州に至るルート

出発地・到着地・経由地により北回りルートは25路線、南回りルートは39路線と多数のブロックトレイン定期便があり（※）（2018年4月時点）、南回りルートの方が路線数が多い状況です。

（※）南回りルートの代表的な路線は「重慶→独デュイスブルク」で週に2便程度運行しており、所要日数は15日程度です。

貨物量も南回りルートが北回りルートの2倍以上あり、合計で年間30万TEUを超える貨物が輸送されています。（1列車で80TEUのコンテナの輸送が可能であり、年間のべ3,750回の輸送に相当します。）

2. 輸送環境の実態（リスク）

(1) 破損リスク

鉄道の線路の幅が異なるため、北回りルート、南回りルートそれぞれの国境付近に積替えポイントがあり（上掲地図の○で表示した5か所）、積替え作業に起因する破損リスクが懸念されます。

2017年2月に霍爾果斯（ホルゴス）にて現地調査を行った際は、荷役作業に特段の混雑は見られず、積替え作業は丁寧に行われていました。

【写真1：ホルゴスでの積替え作業】



（弊社撮影）

【写真2：積替え時のコンテナシール確認・記録の様子】



（弊社撮影）

（2）盗難リスク

輸送途上でコンテナが開けられる事例やコンテナ内の製品が盗難される事例は今のところ少ない模様です。しかしながら、今後、輸送量が増加し、コンテナが長期間滞留するような状況が発生した場合には、高額貨物を中心に盗難リスクが懸念されます。盗難リスクへの備えとして、コンテナに防犯装置を設置するといった対策が有効です。

（3）遅延リスク

コンテナの積替えが必要となることから貨物が滞留し遅延するリスクがあります。2017年2月に実施した霍爾果斯（ホルゴス）コンテナターミナル現地調査および2018年6月に実施したマワシェビチェ（ポーランド）現地調査の際には、貨物の滞留や遅延は確認できませんでしたが、関連報道によれば、二連浩特（エレンホト）では積替え時の滞留が発生しており、またマワシェビチェでは列車集中による遅延が発生しているとの情報もあります。さらに、春節前や年末時期は輸送量が増加し、積替え時に貨物が滞留する可能性が高くなるとも言われています。

チャイナ・ランドブリッジは、中国政府が「一帯一路」構想の下で整備を進め、政府公認のブランド列車「中欧班列（CHINA RAILWAY EXPRESS）」が運行されており、2017年の運行便数は2016年比で2.2倍に伸びています。チャイナ・ランドブリッジの拡大は中国政府による助成金の恩恵が大きいかとも言われますが、輸送日数が海上輸送比で1/3～1/2程度に短縮されることから、定時性や輸送品質が確保されれば、主要物流ルートを選択肢の一つとして存在感が高まると思われます。弊社では引き続き、輸送環境の実態調査を進めて参ります。

また、弊社では霍爾果斯（ホルゴス）コンテナターミナルの調査をはじめ、新シルクロードの要として存在感を示しつつあるカザフスタンにおける最新物流情報と物流リスク対策を取りまとめた『カザフスタン物流事情（DVD-ROM版）』を用意しておりますので、ご視聴を希望されるお客さまは、弊社営業担当までお問い合わせください。

次号では「シベリア・ランドブリッジ」の輸送ルートと輸送環境の実態についてご案内します。

<参考文献一覧>

- ・中国-アジア鉄道物流事情調査報告書（日本国際貿易促進協会）
<http://www.japit.or.jp/event/2015/2015china-asiarail.pdf>
- ・2015年7月22日付みずほレポート（みずほ総合研究所）
<https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/report/report15-0722.pdf>
- ・日刊 Cargo 物流総合紙 2018年7月5日、2018年5月18日、2018年5月7日